第 34 回 日本がん看護学会 国際活動委員会主催セッション

がんゲノム医療の時代に私たちにできることはなにか？
～日米の現状から考える

がんゲノム医療が保険診療として認められるに伴い、がんゲノム医療中核拠点・連携病院における診療体制の整備が急速に進められています。その中で、ゲノム情報を用いてがん医療を推進することと、遺伝性腫瘍のリスク低減に取り組むことに看護職がどのように関わることができるのかということについて、臨床では十分な検討ができないままがんゲノム医療が推進されている状況です。

そこで、ゲノム医療がすでに浸透している海外の事情について情報提供していただき、我が国のがんゲノム診療、遺伝カウンセリング、看護の機能を融合したがんゲノム医療の展望を見出します。

https://www.t-i-forum.co.jp/access/

日時：2020 年 2 月 23 日(日) 8:40-9:40

会場：東京国際フォーラム　ホール B7(第 2 会場)

〒100-0005

東京都千代田区丸の内 3 丁目 5 番 1 号

席数：1,214 席

講師：田村 智英子先生

（FMC 東京クリニック 医療情報・遺伝カウンセリング部／順天堂大学医学部附属順天堂医院 遺伝相談外来／ゲノム診療センター）

○●○●○●○●○●○●○●講師紹介○●○●○●○●○●○●○●○●

田村 智英子(たむら ちえこ)先生

1988 年、東京理科大学薬学部卒業、薬剤師免許取得。帝人（株）にて医薬品の基礎研究、臨床開発、学術活動に従事した後、2000 年、フルブライト奨学金を得て、米国立ヒトゲノム研究所とジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院の遺伝カウンセリング課程に留学、臨床遺伝学の再診知識と心理支援技術を学び、2003 年卒業。その後、米国と日本の認定遺伝カウンセラー資格を取得。2003 年に帰国した後は、国立成育医療センター、木場公園クリニックなどにおいて遺伝カウンセリングの臨床経験を積むとともに、2004～2009 年には、お茶の水女子大学の准教授として遺伝カウンセラーの後進の指導にもあたってきた。現在は、FMC 東京クリニック、順天堂大学医学部附属順天堂医院、国立病院機構岩国医療センターなどにおいて、遺伝性腫瘍や出生前診断など様々な領域の遺伝カウンセリングに従事、患者・家族に対して最新で正確、わかりやすい情報の提供と心理社会的な面のサポートを行っている。また、日本遺伝性腫瘍学会の理事としても積極的に活動しており、欧米の状況を日本に伝えながら、がんゲノム医療などが始まり急速に変化しつつあるがん診療の中で、遺伝学的な情報を活かしていくための方向性を探っている。

主催：日本がん看護学会 国際活動委員会